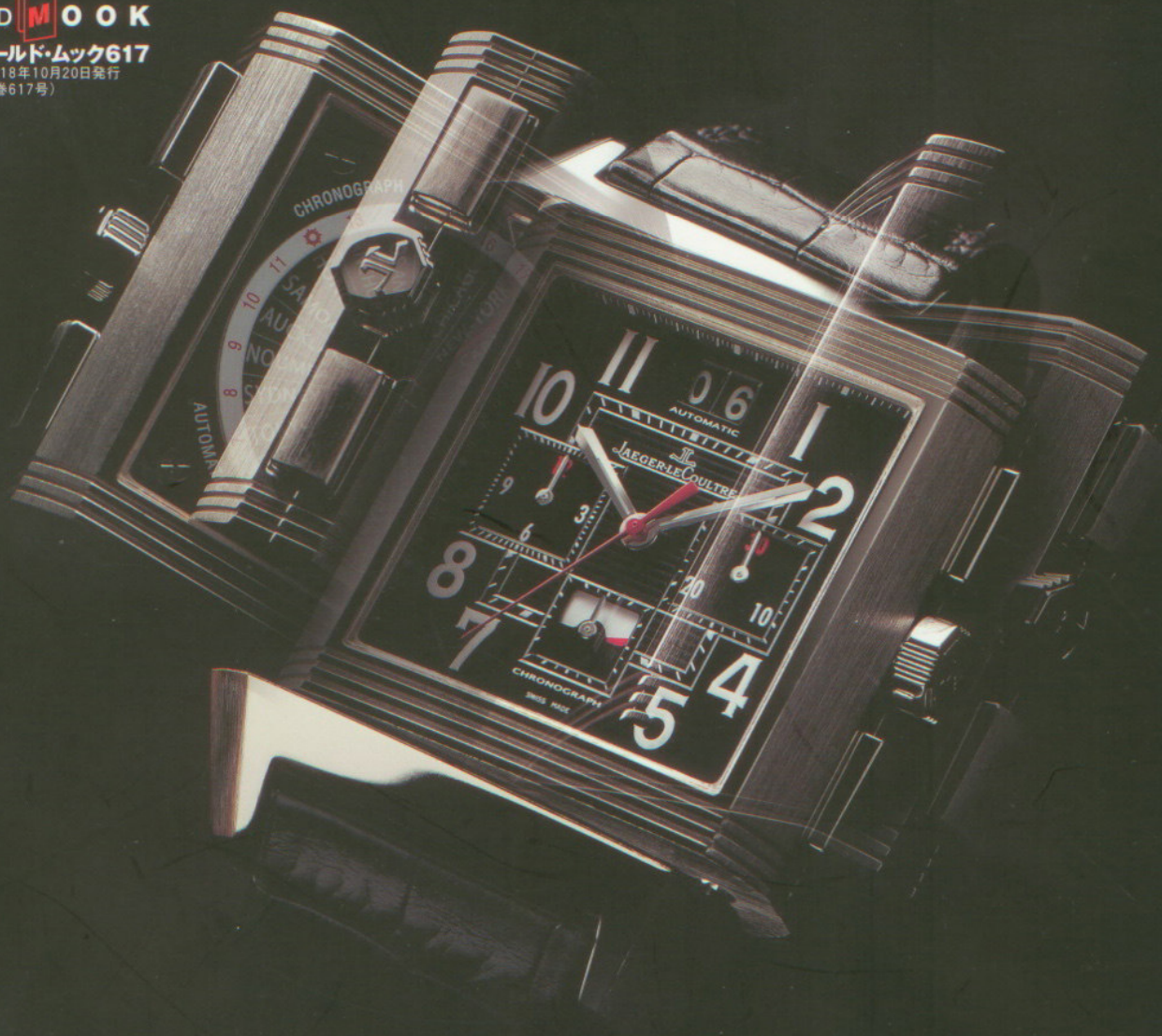


世界の腕時計

WORLD WRIST WATCH TIME SPEC

WORLD **M**OOK

No. 83 ワールド・ムック617
平成18年10月20日発行
(通巻617号)



【特集】

伝統とアヴァンギャルドが織りなす

タグ・ホイヤーの現在

【綴じ込み付録】

リシャール・ミルの魅力

SPEAKE-MARIN

スピーク・マリン



「ピカデリー」自動巻きCaLETA2824-2ベース。毎時2万8800振動。パワーリザーブ約42時間。18Kピンクゴールド・ケース。クロスト仕上げゴールド文字盤。シースルー・バック。3気圧防水。ケース径38mm。価格294万円

Photo/Takenori Aoki (WPP)

修復で得た懐中時計の意匠と技法を自身のコレクションに再現する

大型ピスを備えた骨太のラグ、厚みのあるシリンドラー・ケース、そしてエンブレッドの文字盤。まるで懐中時計をそのまま縮小したかのような骨格が、ビクター・スピーク・マリンさんの時計に共通する特徴だ。彼の時計が古典的な意匠をまもっているのには理由がある。それは、かつて修業時代に、ロンドンではピカデリーサーカスにある時計店で、アンティーク・ウオッチの修復に7年もの間、携わっていたからだ。

「私のキャリアでもっとも充実していたのがロンドンで修復に携わっていた時期です。現在のピカデリー・コレクションはその時代がなくては存在しませんでした」と語るように、スピーク・マリンのコンセプトはアンティーク・ウオッチの修復時代から多大な影響を受けた。彼は後にルノ・エ・パビに誘われてコンプリケーションを担当するが、その時代、自分のためにトゥールビヨン付きの懐中時計を制作している。これが「ピカデリー」の母体となったファウンデーション・ウオッチ。現在のコレクションに見られる意匠や素材は、すべてこの懐中時計から受け継がれたものである。

たとえば、19世紀のイギリス製懐中時計に見られるエンブレッド

ピーター・スピーク・マリン。1968年イギリス生まれ。ロンドンの時計学校を卒業の後、スイスのWOSTEPに学ぶ。その後、オクスフォードの時計輸入代理店でアフターサービスに携わり、ピアジェを経て、ロンドンの時計店でアンティーク・ウォッチの修復に7年間携わる。再びスイスに渡り、ルノ・エ・パビで複雑時計の開発を担当。2000年に独立して時計工房を設立し、「ファウンデーション・ウォッチ」をもとに「ピカデリー」コレクションを発表。2005年にはハリー・ウィンストンのために「エキセンダー・トゥールビヨン」を開発する。



Photo/Yoshihisa Kumagai(WPP)

「ファウンデーション・ウォッチ」のトゥールビヨン・ケージを模った「ピカデリー」の回転鏢。そもそもは懐中時計に用いられたドイツ風の装飾様式がモチーフだ。



「ピカデリー」。自動巻きCaLETA2824-2ベース。毎時2万8800振動。パワーリザーブ約42時間。ステンレススチール・ケース。エナメル文字盤。シースルー・バック。3気圧防水。ケース径38mm。価格136万5000円



「サーベントカレンダー」。自動巻きCaLETA2824-2ベース。毎時2万8800振動。パワーリザーブ約42時間。ステンレススチール・ケース。エナメル文字盤。シースルー・バック。3気圧防水。ケース径38mm。価格168万円



「ピカデリー」。自動巻きCaLETA2824-2ベース。毎時2万8800振動。パワーリザーブ約42時間。ステンレススチール・ケース。フロスト仕上げゴールド文字盤。シースルー・バック。3気圧防水。ケース径38mm。価格168万円



「ピカデリー」。自動巻きCaLETA2824-2ベース。毎時2万8800振動。パワーリザーブ約42時間。18Kホワイトゴールド・ケース。彫金入りゴールド文字盤。シースルー・バック。3気圧防水。ケース径38mm。価格315万円

工房にはわずか5人の技術者と数人の外部スタッフが働くのみ。このため年産は200個にも満たない。当分の目標は現在の仕事を完璧にこなすこと、と言う謙虚な姿勢も彼の魅力である。

「時計作りではデザインも重視しますが、もっとも大切なのは長い年月に耐えうる堅牢性」との言葉通り、耐久性のある作りも特徴となっている。がっしりとしたケースはいうに及ばず、搭載するETA製キャリバー2824は「もっとも強度が高く、テンブも大きくて精度の安定性が高い。しかも手を加えやすい」（スピーク・マリンさん）という理由から採用した。風防には厚さ1.5ミリのサファイアクリスタルを使い、エナメル文字盤は100年を経ても輝きは変わらず、劣化することも無いという。

「修復で培われたその時代、時代のいい物を取り入れているのがピカデリー・コレクションです」と彼は言うが、しかし、単なる回顧主義でクラシカルな意匠を取り入れている訳ではない。

「修復で培われたその時代、時代のいい物を取り入れているのがピカデリー・コレクションです」と彼は言うが、しかし、単なる回顧主義でクラシカルな意匠を取り入れている訳ではない。